

【京都府青少年育成協会会長奨励賞】

「情報を読み解く」

亀岡市立亀岡中学校3年

久保歩風



私たちは、日々情報のシャワーの中で生きています。テレビ・インターネット・新聞・書籍など、受け取る手段もさまざまです。中でもインターネットの情報は分刻みで更新され、新しい情報を簡単に手に入れることができます。

連日、過去最高を更新する記録的な猛暑に見舞われている日本。高温注意報や熱中症対策など、生活上助かる情報がある一方で、「フェイクニュース」といわれるものに出会い、不安や憤りを感じることもあります。

私が特に憤りを感じるのは、災害時のフェイクニュースです。2016年4月に起きた熊本地震のときには、「ライオンが脱走した」という嘘の情報が、写真付きで実にリアルにツイッター上で拡散され、被災地が混乱に陥りました。このツイートをした男性は後に逮捕されたそうですが、SNSはその手頃さから面白半分て情報を発信する人も多く、こういうニュースに触れるたびに、便利さと引き替えに大切なものを失っているのではないかという不安に襲われます。災害時、たださえ大きな不安を抱えている被災者の方に対する追い打ちをかけるような行為。「情報」の元にあるのは人間の悪意だと思つて悲しくなります。現に私も6月に起きた大阪北部地震のときには、突然の大きな揺れに恐怖を感じ、頭が真っ白になりました。もし、あの時、嘘の情報が流れていたらきっと冷静な判断ができずに、パニックに陥ったのではないのでしょうか。突然、思いも掛けないことが自分の身に降りかかったとき、落ち着いて判断することがいかに難しいか、身を以って体験したできごとでした。

誰もが情報の発信者になれる今だからこそ、一人一人が責任ある行動をとることが大切なのではないかと改めて感じています。

もちろん、情報を発信する側だけでなく、受信する側の意識も重要です。ネットの情報は、玉石混交です。ネット上の情報やSNSの投稿を鵜呑みにせず、自分で取捨選択しなければ、嘘の情報に惑わされ、自分自身を見失ってしまう可能性もあります。これは、ネットだけに限らず、他のメディアでも言えることだと思いますが、「情報を読み解く力」を身につけることが、私たちにとって今、最も重要なのではないのでしょうか。

では、「情報を読み解く力」をどのように身につけていけばいいのでしょうか。私なりにその方法を探るため、さまざまなメディアから情報を集めてみました。すると実にたくさんの情報を得ることができたのですが、その中から、「これだ」と思う情報を選ぶことは難しく、思った以上に情報の海は広いのだと感じました。そんな中で、「自分なりの確認方程式を作る」という言葉に出会えた私はラッキーだったのかもしれませんが、『人間はだまされるーフェイクニュースを見分けるためには』という本に書かれていた言葉です。

事件などが起こるとさまざまな情報が飛び交います。少しでも情報がほしい人は手当たり次第に色々な情報を集めるでしょう。しかし受信するだけでは「知る」ことにはならず混乱するだけです。そこで自分なりの「確認方程式」をたてるのです。自分は憤りなどの感情に任せて情報を選んでいないか、自分と異なった意見に耳を傾けるのを避けていないかを確認する。色々な考えに触れる中でより考える力がつくはずだからです。さらに、洪水のように襲ってくる情報が事実かどうかを確認すること。確認の方法として、記事の根拠は何なのか。記事を書いたジャーナリストは自分の目で見たことを書いたのか、引用したのか。引用元の情報源は何か、などを確認することで、自分なりの基準や尺度ができ、それが更新されていくようなのです。筆者のこの言葉はすうっと心に入ってきて、私自身が多くの情報の中から取捨選択してきた情報の一つではないかと思えます。

フェイクニュースなどの嘘の情報は私たちの身近なところに潜んでいます。油断していると、思わぬ被害にあうかもしれないし、誤って嘘の情報を拡散してしまい、自分が加害者になってしまうことがあるかもしれません。だからこそ今、自分の頭で考えることを放棄せず、情報の海をうまく泳いでいけるように、「情報を読み解く力」をつけることが大切だと改めて感じています。